



**SHINSHO CORPORATION**

<http://www.shinsho.co.jp/>

第 85 期

# 中間事業報告書

平成14年4月1日から  
平成14年9月30日まで



神鋼商事 株式  
会社

---

## 会社概要

設立	昭和21年11月12日
発行済株式総数	78,605,625株
資本金	3,930,281,250円
主要取扱品目	鉄鋼、鉄鋼原料、非鉄金属、機械、溶材、電子
事業所	
大阪本社	大阪府中央区北浜2丁目6番17号
東京本社	東京都中央区日本橋1丁目2番5号
名古屋支社	名古屋市中村区名駅3丁目28番12号
九州支社	福岡市博多区博多駅前2丁目1番
神戸支社	神戸市中央区脇浜町2丁目11番14号
支店	中国(広島)、静岡、北陸(富山)、東北(仙台)、札幌
出張所	熊本、長府、徳山、加古川、岐阜、群馬
海外事業所	シドニー、ジャカルタ、香港、北京、上海、マニラ
海外現地法人	シドニー、ロスアンゼルス、シカゴ、デトロイト、ワシントン、コネチカット、アムステルダム、バンコク、レムチャパン、アユタヤ、ベナン、クアラルンプール、シンガポール、新竹、台北、上海

---

# 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援とご高配を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

さて、第85期上半期（平成14年4月1日から平成14年9月30日まで）の営業の概況ならびに諸計算を別項のとおりご報告させていただきますので、ご高覧のほどお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、何とぞ今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月



代表取締役社長

杉本宏之

# 営 業 の 概 況

当上半期のわが国経済は、世界経済の緩やかな回復傾向を背景にアジア向けを中心に輸出が伸長し鉄工業生産も増加するなど、下げ止まりの兆しを見せましたが、個人消費・民間設備投資は低水準のまま推移していることから景況は依然として厳しい状況が続けてまいりました。

このような環境下におきまして、当社はコアビジネスである鉄鋼・非鉄金属・機械・溶材の各部門を中心に選択と集中を一段と推し進め、事業構造改革のスピードをあげるとともに、引続き海外事業を拡充強化して海外各地において多面的な事業展開を図り、米国においては自動車部品メーカーとの繋がりを強め、タイではアユタヤに物流拠点を新設、また、中国では北京事務所を拡充して、WTO(世界貿易機関)加盟以降、社会資本整備に注力する同国の巨大市場発掘を目指すなど営業力ならびに収益力の向上に努めてまいりました。

しかしながら、当上半期の売上高は、2,086億44百万円と前年同期に比較して1.2%の減少となりました。

これを部門別にご説明いたします。

## 鉄 鋼 部 門

鉄鋼製品の取扱いは、造船および自動車関連向けの需要は拡大しましたが公共投資・民間設備投資関連需要は依然として厳しい状況のまま推移し、また、輸出もアジア地域向けは堅調に推移しましたが、米国をはじめとする他地域向けは不振が続いたことから、売上高は減少いたしました。一方、鉄鋼原料は鉄鉱石の値下げやHB I(還元鉄)の取扱減がありました。鉄屑市況の上昇、コークス価格の上昇および神鋼IPP(電力卸供給事業)1号機稼動に伴う石炭の取扱増により、売上高は増加いたしました。これらにより鉄鋼部門全体の売上高は、前年同期比2.5%減少の998億51百万円となりました。

## 非 鉄 金 属 部 門

半導体および自動車用端子コネクタ関連は増加しましたが、空調用銅管が国内外とも低調に推移し、また、アルミ・

銅原料も減少したことにより、売上高は前年同期比7.7%減少の454億99百万円となりました。

#### 機 械 部 門

中国向けインフラ関連設備および建設機械部品の取扱いが大きく増加しましたが、主力の鉄鋼・化学業界の設備投資は低調なままに推移したことから、売上高は前年同期比ほぼ横這いの293億98百万円となりました。

#### 溶 材 部 門

主力需要家の造船業界は大手・中堅とも依然堅調でしたが、建築・橋梁業界は公共投資削減の影響もあって大きく落ち込み、さらに、流通向け溶接材料・汎用機がともに減少したことから、売上高は前年同期比12.3%減少の137億10百万円となりました。

#### 電 子 部 門

液晶用材料、携帯電話用電子部品がともに増加し、また、半導体需要の回復から半導体検査受託ビジネスも大幅に伸びたことにより、売上高は前年同期比72.5%増加の170億51百万円となりました。

#### そ の 他 部 門

ホームセンター向け一般消費財の取扱いは順調に増加し、また、リサイクル商品など環境関連ビジネスも伸びてまいりましたが、牛肉・飼料の取扱いが減少し、マンションの販売も減少したことにより、売上高は前年同期比31.1%減少の31億32百万円となりました。

損益につきましては、売上高の減少ならびに売上総利益率の低下に伴い、営業利益は10億80百万円と前年同期比27.5%減少し、また、為替差損の発生により経常利益も5億33百万円と前年同期比52.6%の減少となりましたが、特別損益計上後の中間利益は、3億45百万円となり前上半期1億42百万円の損失から、大幅に改善することができました。

しかしながら、当期の中間配当につきましては、誠に

遺憾ながら引続き見送らせていただくことといたしました。

株主の皆様におかれましては、事情ご賢察のうえ、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しといたしましては、米国経済の減速ならびに国内におけるいわゆる不良債権処理問題の進展あるいは株価・為替の動向等の要因によりなお景気の先行きは不透明であり、経営環境は依然として予断を許さない厳しい状況が引続くものと思われます。

このような情勢に対処するため、当社は引続き安定経営を念頭に、事業の選択と集中に積極的に取組み、また、有利子負債の圧縮をも図るなど事業構造改革を加速させ、さらにはニュービジネスの創出、海外ビジネスの拡充強化にも鋭意取組んで収益構造を改善強化し、もって収益力の向上を図ってまいり所存であります。

株主の皆様には、当社の現状についてご理解賜りますとともに、どうか今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

## 部門別売上高

部 門	第85期上半期		第84期上半期		前 年 同期比 増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比	
	百万円	%	百万円	%	%
鉄 鋼	99,851	47.8	102,427	48.5	2.5
非鉄金属	45,499	21.8	49,320	23.3	7.7
機 械	29,398	14.1	29,495	14.0	0.3
溶 材	13,710	6.6	15,645	7.4	12.3
電 子	17,051	8.2	9,881	4.7	72.5
そ の 他	3,132	1.5	4,551	2.1	31.1
合 計	208,644	100	211,320	100	1.2

## 株式に関する事項

発行する株式の総数	270,000,000株
発行済株式の総数	78,605,625株
上半期末株主数	5,544名（前期比167名減）
名義書換件数	341件
名義書換株式数	2,545,732株

# 中間貸借対照表

平成14年9月30日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
	百万円		百万円
<b>流動資産</b>	<b>149,990</b>	<b>流動負債</b>	<b>191,102</b>
現金および預金	7,662	支払手形	18,813
受取手形	24,617	買掛金	83,905
売掛金	101,390	短期借入金	83,028
商品	12,612	未払費用	1,160
前払金	1,250	前受金	1,820
前払費用	64	前受収益	25
繰延税金資産	460	賞与引当金	580
未収金	1,405	その他の流動負債	1,769
短期貸付金	389		
その他の流動資産	449		
貸倒引当金	313		
<b>固定資産</b>	<b>53,861</b>	<b>固定負債</b>	<b>8,075</b>
有形固定資産	26,059	長期借入金	7,210
建物	4,595	預り保証金	605
構築物	91	役員退職慰労引当金	260
機械および装置	32		
車輛運搬具	4	<b>負債合計</b>	<b>199,178</b>
器具および備品	56		
土地	21,280		
無形固定資産	82		
ソフトウェア	14	<b>資本の部</b>	
諸施設利用権	68	資本金	3,930
投資等	27,719	資本剰余金	991
投資有価証券	9,209	資本準備金	991
子会社株式	5,095	利益剰余金	345
長期貸付金	7,900	中間未処分利益	345
前払年金費用	1,940	(うち中間利益)	(345)
繰延税金資産	1,464	株式等評価差額金	593
その他の投資等	6,272	自己株式	0
貸倒引当金	4,164		
		<b>資本合計</b>	<b>4,673</b>
<b>資産合計</b>	<b>203,852</b>	<b>負債および資本合計</b>	<b>203,852</b>

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 子会社に対する金銭債権・債務	短期金銭債権	9,409百万円
	短期金銭債務	1,716百万円
	長期金銭債権	3,469百万円
	長期金銭債務	2百万円
3. 有形固定資産の減価償却累計額		2,920百万円
4. 担保に供している資産		1,518百万円
5. 保証債務残高		8,142百万円
6. 受取手形割引高および裏書譲渡高		477百万円
7. 役員退職慰労引当金は、商法第287条ノ2に規定する引当金であります。		

# 中間損益計算書

平成14年4月1日から  
平成14年9月30日まで

	百万円	百万円
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	208,644	208,644
営業費用		
売上原価	202,267	
販売費および一般管理費	5,296	207,563
営業利益		<b>1,080</b>
営業外損益の部		
営業外収益		
受取利息	204	
受取配当金	108	
雑収入	223	536
営業外費用		
支払利息	846	
雑損失	237	1,083
経常利益		<b>533</b>
特別損益の部		
特別利益		
投資有価証券売却益	17	
子会社株式売却益	664	682
特別損失		
固定資産廃却損	91	
投資有価証券評価損	114	
子会社株式評価損	278	
貸倒引当金繰入損	700	1,184
税引前中間利益		<b>31</b>
法人税等	13	
法人税等調整額	327	314
中間利益		<b>345</b>
中間未処分利益		<b>345</b>

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 子会社との取引高  
     売上高 13,517百万円  
     仕入高 3,258百万円

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表の要旨

平成14年9月30日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
	百万円		百万円
流動資産	167,613	流動負債	208,080
現金および預金	11,231	支払手形および買掛金	107,467
受取手形および売掛金	134,495	短期借入金	94,968
たな卸資産	17,975	その他	5,644
その他	3,910	固定負債	8,702
固定資産	53,416	長期借入金	7,510
有形固定資産	32,402	その他	1,192
無形固定資産	238	負債合計	216,783
投資等	20,774	少数株主持分	1,064
		資 本 の 部	
		資本金	3,930
		資本剰余金	991
		利益剰余金	68
		その他有価証券評価差額金	596
		為替換算調整勘定	1,069
		自己株式	5
		資本合計	3,181
資産合計	221,029	負債、少数株主持分 および資本合計	221,029

## 中間連結損益計算書の要旨

平成14年4月1日から  
平成14年9月30日まで

	百万円
売上高	227,201
売上原価	218,185
売上総利益	9,016
販売費および一般管理費	7,634
営業利益	1,381
営業外収益	539
営業外費用	1,355
経常利益	565
特別利益	17
特別損失	889
税金等調整前中間純利益	306
法人税、住民税および事業税	107
法人税等調整額	364
少数株主利益	8
中間純利益	40

(注) 当中間期末の連結子会社は23社、持分法適用会社は9社であります。

# 株 主 メ モ

決 算 期	3月31日
利 益 配 当 金 受領株主確定日	3月31日
中 間 配 当 金 受領株主確定日	9月30日
定 時 株 主 総 会	6月
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞
1単元の株式の数	1,000株
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
名義書換事務 取 扱 場 所	大阪府中央区伏見町3丁目6番3号(〒541-8502) UFJ信託銀行株式会社大阪支店証券代行部 電話 大阪(06)6229-3011
同 事 務 取 次 所	UFJ信託銀行株式会社本店・支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)0120-24-4479(本店証券代行部)

0120-68-4479(大阪支店証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>